

徳をたたえる

人が困っているのを見て、何とかしようとする人がいます。後になって、その人の功績をたたえる人々がいます。香川県丸亀市と愛媛県松山市の例をご紹介します。

■小津森池を増築した土岐六蔵（香川県丸亀市）

丸亀市綾歌町の小津森（こづもり）池は寛文12年（1672）に矢延平六によって築造され、文政年間（1818～1830）には大庄屋木村又左衛門らによって嵩上げ工事が行われましたが、貯水量は20万トン程度でした。水が足りないため、水田の4割には綿や甘藷が作付けされていました。明治27年（1894）の干ばつにより水稻が枯死するのを見て、岡田に住む土岐六蔵は小津森池の増築を決意しました。堤防を4.5m嵩上げする工事は、明治27年9月に始まり、翌年3月に竣工しました。要した人夫は4万4千人余で、工費の大部分は土岐が工面しました。嵩上げ工事により貯水量は52万トンに増え、盛んに水稻栽培が行われるようになりました。先覚者の徳をたたえるため、昭和30年（1955）に土岐六蔵翁頌徳碑が建立されました。＜香川県農林部編「農林業の石碑～先人の遺業をしのぶ～」1981年など＞



小津森池

copyright-2013西園災害アーカイブス



土岐六蔵翁頌徳碑



(地理院地図に加筆)

■俵原池を築いた松田喜三郎（愛媛県松山市）

昭和9年（1934）、日照りが続き、ひどい干害が起きました。少ない地下水を汲み上げ、杓やかんで稲にかける農家の人もいましたが、稲はほとんど枯れ、収穫は平年の半分もありませんでした。この様子を見て、国会議員で北条町長の松田喜三郎はため池をつくることを決心し、国や県に働きかけ、地元の人々にも協力を求めました。困難な問題が次から次へと起きましたが、松田らは奔走して説得を続けました。その結果、俵原（たわらばら）池の建設は昭和12年（1937）に県の事業として始められ、延べ14万3,600人の労力をかけて昭和17年（1942）に完成しました。これにより難波、正岡、北条の約500haの水田は安心してつくることできるようになりました。先人の働きをたたえ、昭和33年

（1958）に松田喜三郎翁頌徳碑が建立されました。（北条市のくらし編集委員会編「北条市のくらし」1999年など）



俵原池

copyright-2013西園災害アーカイブス



松田喜三郎翁頌徳碑



(地理院地図に加筆)